

高大接続改革の進捗状況に対する意見募集の結果について（概要）

（募集期間：平成 29 年 5 月 16 日～6 月 14 日）

1. 意見提出主体数：570 主体（意見内容延べ数：1007 件）2. 大学入学共通テスト（仮称）実施方針（案）について（822 件）

① 記述式問題の導入について（143 件）

導入に賛成する意見（14 件）があった一方、不要という意見（36 件）や共通テストの限られた条件では思考力・判断力・表現力は測れない（14 件）、コストに見合わない（13 件）などの課題を指摘するものも見られた。

② 英語 4 技能評価の資格・検定試験活用について（567 件）

大学入学者選抜の 4 技能評価の導入や民間の資格・検定試験の活用については、賛同する意見（59 件）があった一方、民間の資格・検定試験の活用にあたっては公平性を担保すべき（147 件）、共通テストで 4 技能評価を行うべき（106 件）、などの意見も多く見られた。

3. 平成 33 年度大学入学者選抜実施要項の見直しに関する予告（案）について（185 件）

入学者選抜における評価方法等の内容面や実施時期の見直し等について、賛同する意見（10 件）があった一方、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価方法の明確化に関する意見（6 件）や、出願時に提出する調査書の様式の見直しについて、必要ないとする意見（57 件）や、教員の長時間過密労働が一層進む恐れがある（10 件）などの意見も多く見られた。

高大接続改革の進捗状況に対する意見募集の結果について（詳細） （募集期間：平成 29 年 5 月 16 日～6 月 14 日）

1. 意見提出主体数：570主体（意見内容延べ数：1007件）

2. 主な意見の内容

「大学入学共通テスト（仮称）」実施方針（案）について（822件）

＜記述式問題導入について＞143件

- 記述式問題の導入に賛成（14件）
- 共通テストに記述式問題は不要（2次試験で課している、または課すべき、マークシート式問題を改善すべき、問題数が少ない）（36件）
- 記述式問題の導入はコストに見合わない（13件）
- 記述式は自己採点が困難（9件）
- 共通テストの限られた条件では、思考力・判断力・表現力を測れない（14件）
- マークシート式問題も改善すべき、または例題を公表すべき（5件）

＜英語4技能評価の資格・検定試験活用について＞567件

- 大学入試への英語四技能試験の導入に賛成（36件）
- 英語の外部試験導入に賛成（23件）
- A案の方が良い（10件）
- B案の方が良い（9件）
- 英語4技能試験は、共通テストで行うべき（106件）
- 英語の共通テストを36年度以降も継続して実施すべき（6件）
- 英語の資格・検定試験における公平性の担保は困難、または担保すべき（試験監督者や実施会場、検定料、各試験の難易度、練習試験）（147件）
- 複数の試験の結果を比較することは困難（18件）
- CEFRの6段階を細分化すべき（12件）
- 高校3年生以外の結果も活用できるようにすべき、回数を制限すべきではない（6件）
- 民間検定試験導入で、受験生に経済的負担を課すべきではない（10件）
- 民間検定試験では、学習指導要領（高校の授業）とは異なるものであり、判定できない、または判定できるようにすべき（25件）
- 高校の授業が民間検定試験対策に偏重する、進路指導を歪めることになる（14件）
- 民間検定試験を導入すると、民間の実施団体がビジネス志向になり不正が起りかねない、一部の企業の利益になるのは良くない（4件）
- センター試験の英語以外（特に仏語について多く意見あり）の外国語試験は存続すべき（4技能も追加、国連の公用語も追加）（92件）

＜共通テストに関するその他の意見＞112件

- 共通テストは大学入学資格試験と位置付けるべき（37件）
- 段階別評価では選抜できない、または不公平になる（16件）
- 現行のセンター試験が良い。まずはセンター試験を検証すべき。受験生のためには、変更せず混乱のないようにすべき（8件）

「平成 33 年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告（案）」について（185件）

<新たなルール全般について> 10件

- 内容面、実施面ともに、現在の高等学校、大学が抱える問題点を適切に指摘し、制度上の面から改善として評価し、各入試区分における多面的・総合的評価の必須化、実施時期の明確化の方向性に賛同。(6件)
- AO・推薦入試の現状の問題点を考慮して、入口での学力担保は、方針を貫き確実に実施すべき。(2件)

<評価方法について> 23件

- AO・推薦入試でも「大学入学共通テスト」を必須化し、その上で個別大学が実施する評価をすべき。(5件)
- 全ての入試形式で「学力の3要素」が求められ、中でも「主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度」が強調され、生徒の人格まで踏み込んで評価する大学入試改革となっている点は大きな問題。(6件)
- 「主体性等」を客観的に評価できる方法がないまま、調査書にその評価を依存するというのは無責任。(6件)

<入学前教育について> 7件

- 入学前教育は義務化や必須化すべき。(3件)
- 入学前教育の強化は、受験生・高等学校、大学の負担を増大させるためやめるべき。(2件)

<調査書について> 132件

- 調査書は指導要録を基に作成されていることに留意。詳細は志願者本人が記載する資料に記入するのが妥当であり、様式の変更や制限の撤廃は必要ない。(57件)
- 調査書の記載欄を分割してより多様で具体的な内容が記載されるようにする提案は、教員の長時間過密労働を一層進めることになるためやめるべき。(10件)
- 調査書の変更は指導要録の改訂に合わせて行うべき。(13件)
- 調査書の電子化については、個人情報保護の観点から慎重に検討すべき。(23件)